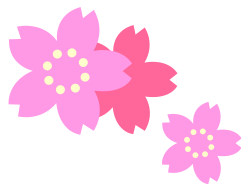


誠・力・光

平成28年 4月20日
練馬区立北町中学校
学校だより 1号



断つ心より結ぶ心で

校長 赤木 宏 行

先日雑誌を読んでいたら、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三武将の性格をホトトギスに託して歌ったものが載っていました。有名な歌です。

「鳴かぬなら 殺してしまえ ホトトギス」（織田信長）

鳴かないのなら、役に立たないので殺してしまえという意味で、信長の短気な性格を歌ったものです。

「鳴かぬなら 鳴かせてみよう ホトトギス」（豊臣秀吉）

鳴かないのなら、何とか工夫して鳴かせてみようという意味で、秀吉の工夫する人柄を表しています。

「鳴かぬなら 鳴くまで待とう ホトトギス」（徳川家康）

ホトトギスよ、そちらが鳴かないつもりなら、鳴くまで気長に待っていようという意味で、家康の忍耐強い性格を表現しています。

それぞれの武将の性格の特徴を言い表してもので、目にする度に感心させられます。

ところで、これを「子供の学習」に例を取ったとしたら、三人の武将はどのようにするのでしょうか。ここに学習を熱心にやらない子供がいたとします。短気な信長は「そんなのは相手にするな。もともとやる気がないし、今後もやる気なんか起こるわけ無いのだからほっておけ！」となるのでしょうか。あきらめが先に立ち、子供の可能性を信じないで、徹底的にけなすタイプだと思います。工夫をする秀吉は「何とか出来るはずだ。今、やる気が起こらないのは何か原因があるはずだ。何とかしなければ！」と様々な工夫をして、子供にアタックするタイプでしょうか。忍耐強い家康は「今はじっと我慢して、見守ることが得策だ。今ガタガタ言くと、なおさら反抗してやらなくなる。忍の一字で行こう！」と、次のチャンスをじっと待つタイプになるのでしょうか。

どの対応の仕方がよいのかは、子供の状況にもよるので、一概にこれが正しいとは言えません。しかし、短気な信長流は歓迎されないと思います。私は、工夫する秀吉流が好きです。子供の状況によっては、忍耐強い家康流も参考になると思います。しかし、家康のように「いつかは学習するだろう」とただ待つばかりでは、あっという間に中学校の三年間は過ぎてしまい、結局学習に真剣に取り組まず、時間を浪費しただけと言うこともあるかもしれません。ではどう子供に対応したらよいのでしょうか。変わる可能性を信じることを基本に、走る心より歩く心で、責めるより思いやって許す心で、断つより結ぶ心で子供に対応することが大切なのではないのでしょうか。